

第四十三回 庭野平和賞贈呈式ご挨拶

公益財団法人庭野平和財団 名誉会長 庭野 日鏡

本日は、「第四十三回庭野平和賞」の贈呈式に際し、多くのご来賓のご臨席を頂き、誠にありがとうございます。

今年度の「庭野平和賞」の受賞者は、アマゾンに住む先住民の精神的指導者であるベンキ・ピヤコ師でございます。

選考にあたられたソムブーン・チュンプランプリー委員長さまはじめ、庭野平和賞委員会の皆さまに深く敬意を表する次第であります。

只今、委員長さまから贈呈理由についてのご報告がありましたように、ピヤコ師は、長年にわたり、アマゾンの森林保護、先住民の権利擁護、持続可能な生活モデルの推進、国際的な啓発活動などに力を尽くしてこられた方です。

皆さまもご存知のように、アマゾン是世界で最も重要な生態系の一つです。日本の約十五倍の面積におよぶ熱帯雨林は、二千億トンもの炭素を樹木や土壌の中に蓄えています。その量は、世界の炭素排出量の十五年から二十年分に相当するといわれます。

この壮大な森が、いま崩壊の危機に瀕しているのです。長年繰り返されてきた森林破壊で、原生林の二割近くが失われようとしています。

多くの科学者は、後戻りできない臨界点が近づいていると警告しています。森林がさらに失われれば、アマゾンは十分な雨を降らせることができず、熱帯雨林ではなくなってしまうのです。生物種の多様性は損なわれ、アマゾンが蓄えている大量の炭素が、今度は大気中に放出される恐れがあります。

森林が炭素を吸収する重要な機能を失い、むしろ強力な排出源になるとしたら、地球の平均気温が一層上昇するなど、その影響は世界に及びます。

まさに私たち日本人の生活にも直結する極めて深刻な事態であります。

このような危機的状況を踏まえ、ピヤコ師は、政府やNGOとも協力しながら、持続可能な経済活動、社会活動を模索する努力を重ねられています。

特筆すべきことは、その活動の精神的な規範を、先住民のコミュニティに伝

わる伝統的な価値観に置いていくことです。ピヤコ師が属するアシャニンカ族の世界観によると、人間・動物・植物・精霊は、広い意味での“親戚”の関係にあるとされています。自然は、人間が支配するものではなく、共に生きる存在であり、森、川、動物、全てに靈的存在が宿っていると考えられています。

このような先住民の価値観や生き方の中に、世界的な環境保護の重要な力があると言われているのであります。

現在、地球上には、約三千万種類の生物が生息していると推定されています。それらに加えて、過去三十八億年の間に存在した生物、そして今後地球上に生まれてくるであろう生物は、そのすべてが全く同じ遺伝子暗号を使っていることが、近年の科学的な研究で分かってきました。あらゆる生物は、DNAの遺伝子番号でつながっている、いわば“親戚”だということでもあります。

アシャニンカ族の祖先は、こうした科学的な知見を、アマゾンに生きる動物と共生する中で、自ずと体得し、生かしてこられたのでありましょう。

同様の文化・伝統は日本にもございます。四方を海に囲まれ、山川草木が四季折々に美しい景色を織り成す日本は、古来、人間を自然の一部ととらえ、自然との共生を目指す生き方を志向してきました。

例えば、日本の神道では、「八百万の神」といわれるように、あらゆる存在に神が宿ると教えられています。神社の社殿や参道をとり囲むように生えている木立や森林を「鎮守の森」と呼びます。神が宿る場所、あるいは神社の聖なる空間を外の世界から区切る「神聖な森」として大切にされてきました。

このように、日本人が今日まで連綿と受け継いできた文化、伝統の中には、自然と人間を共に生かす叡智が数多くあります。

しかし残念なことに、現代人はいつしか自然に対する畏敬の念を忘れ、大量生産、大量消費を最優先に考えるようになりました。その結果、日本においても気候変動、海洋汚染、水質汚染、大気汚染、土壌汚染、生物多様性の危機、森林破壊などの課題が山積しております。

私は仏教徒ですが、そもそも釈尊の教えは、人間の欲望を叶えることを目標とはしておりません。むしろ執着を離れ、人間として生きる意味を真に見出す

大切さを教えています。

その意味で、人間が日々の生活を営む上で大切なのは、「簡素」ということではないかと受けとめています。「簡素」とは、本質を見究め、人間が生きていく上で何が大事かを踏まえて、必要なものは具え、そうでないものは省くということです。

欲望のおもむくまま、無原則に生きるのではなく、宗教的な規範をもとに、行き過ぎることのない節度ある生活をおくることは、自然と人間との共生を図るために、最も大切な姿勢であろうと思います。

私は、六歳の頃から十年間、新潟県十日町市の菅沼という山村で過ごしました。そこでは、自然の美しさ、豊かさと同時に、豪雪などの怖さを身をもって知りました。子供ながらに、自然に対して深い畏敬の念を抱いていたのであります。

それだけに、ピヤコ師の活動や考え方、将来への願いに深く共感しました。先人から受け継いだ叡智についても学ぶことができました。そして何より、将来に向けての勇気を頂きました。

アマゾンの森林保護は、一刻の猶予も許されない課題です。持続可能な世界の実現に向け、一層のリーダーシップを発揮してくださることを念願してやみません。

本日の贈呈式を契機として、ピヤコ師の願いと行動を、より多くの人々が共有することを期待し、またご健康で、これまで同様にご活躍くださることを祈念して、挨拶と致します。

ありがとうございました。